

第 40 回日本臨床矯正歯科医会記念東京大会



臨床セミナー『会員アンケートに基づく抜歯非抜歯のコンセンサス』

矯正歯科における抜歯非抜歯に関するアンケート（その 1）と（その 2）の結果報告

稲毛 滋自

21 世紀における医療現場ではインフォームドコンセントが強く求められています。動的矯正歯科治療に際して抜歯するか否かの選択は、いかに治療方法や装置または材料などが考案・開発され矯正臨床に応用されたとしても、インフォームドコンセントを実践するに当たって最重要な課題のひとつです。

そこで矯正歯科治療のスペシャリストの集団である日本臨床矯正歯科医会の正会員 439 名に対して、「患者の視点に立って矯正歯科治療に際しては永久歯の抜去が必要な症例が少なからずあるのか、否か」について検証をおこなうために、「矯正歯科治療における抜歯非抜歯に関するアンケート（その 1）」（以下、「アンケート（その 1）」と略す）を作成し平成 24 年 7 月に調査を実施しました。さらに、動的矯正歯科治療に際して抜歯するか否かを判断するためのパラメータは多岐に及ぶことを承知しつつ、あえて下顎の *arch length discrepancy* をパラメータとして限定し「矯正歯科治療における抜歯非抜歯に関するアンケート（その 2）」（以下、「アンケート（その 2）」と略す）を作成し平成 24 年 8 月に調査を実施しました。アンケートに対する回答の返送方法は郵送による返送、メール添付による返送、FAX による返送の 3 通りのいずれかとなりました。なお、両アンケートの設問作成にあたっては日本歯科大学生命歯学部歯科矯正学講座の新井一仁教授にご協力をいただき、回収されたアンケートの集計にあたっては新井教授のご指導の下に同講座の先生方の献身的なご尽力を賜りました。

「アンケート（その 1）」と「アンケート（その 2）」の結果をトピック的にまとめると以下のごとくです。

- ① 「アンケート（その 1）」の回答件数は、正会員数の約 62.2%にあたる 273 件でした。
- ② 回答しづらい設問があったにもかかわらず「アンケート（その 2）」の回答件数は、正会員数の約 36.0%にあたる 158 件でした。
- ③ 「アンケート（その 1）」質問 3-2 で、平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日の 1 年間に永久歯列期の動的矯正歯科治療を終了した患者のうち、矯正歯科治療の一環として永久歯（第三大臼歯を含む）を抜去した患者の割合で最も多かった選択肢は、70 ～ 79%でした。また 0%という回答者は皆無でした。
- ④ 「アンケート（その 2）」質問 8 にある Angle Class I の成人の不正咬合を矯正歯科するにあたって、下顎の *arch length discrepancy* を判断基準として患者に下顎永久歯の抜去（第三大臼歯は含まず）をすすめるか否かの境界領域は、-4 ～ -8 mm でした。

臨床セミナーでは時間の許す限り詳しく結果をご報告いたします。